## )植物家佛醫サヴァチエー氏ノ事蹟補遺へノ追加

井 忠 宗

千葉醫學專門學校醫學士

餘種アリ)ハ總テハリオー P. HARIOT 氏ニ致シ同氏ハ之ヲ「サヴァチエー氏ヨリ得タル日本横須賀産海藻名 サヴァチエー氏ガ自身及ビデュッポン氏等ヲ煩ハシテ採集シタル植物標本中藻類(記載詳細ナルモノ五十

Hariot, P.—Liste des Algues Marines rapportées de Yokoska (Japon) par M. le Dr. Savatier (Mém. des Sc.

nat. et math. de Cherbourg, 1891.)」トシサヴァチエー氏ノ歿年即西曆千八百九十一年(我明治二十四年)ニ佛國 Gigartina prolifera, Hariot; Polysiphonia Savatieri, Hariot; Polysiphonia yokoskensis, Hariot. 等數種アリ、然 ニ於テ公表シタリ、其中新種トシテ Bonnemaisonia hamifera, HarioT; Dictyopteris polypodioides, HarioT;

farinosa, LAMX. 等ヲサヴァチエー氏ガ横須賀ニ於テ採集シタリトナスモ右ハ何レモ同地附近ニ其存否全ク不明 集セシモノト思惟シ産地ヲ横須賀トナシタルヲ以テ後學ヲシテ惑ハシムルコト少ナカラズ、例へバハリオー氏 ルニハリオー氏ハサヴァチエー氏ガ日本各地ヨリ採集シタル標本ノ大部分ヲサヴァチエー氏ガ横須賀ニ於ラ採 Gigartina punctata, (Sur.) Hariot et Var. flabelliformis, Hariot; Gigartina prolifera, Hariot; Melobesia

HARIOT. ヲ加へ phonia Savatieri, HARIOT. ヲ加へ ニシテ其確タル産地ヲ詳ニセザルガ如シ ●四 『引證』 ノ中へ 岡村金太郎、日本藻類名藁(第二版) 大正五年 ●Ⅲ『横須賀ヲ植物ノ種名トセルモノ』ノ中へ Polysiphonia yokoskensis

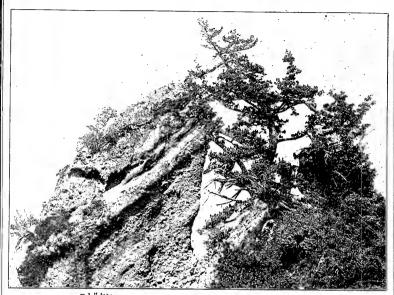
●II 『サヴァチエー氏ヲ植物ノ種名トセルモノ』ノ中へ Polysi

ヲ加フ

〇朝鮮産松柏類ノ種類ト分布 (承前)

植物家佛醫サヴァチエー氏ノ事蹟補遺へノ追加

朝鮮産松柏類ノ種類ト分布 (承前)



欝陵島南陽洞ノ海岸ノ巖上=生ズルいぶき (Juniperus chinensis LINN.) ノ老樹ナリ、大正六年余が同島ヲ回リシ時目撃セシモノ、 最大樹ナリ、側=在ル人ト其大サラ比較スペシ

抱

雌 堂

形

道

達 延 **≥**⁄ 北

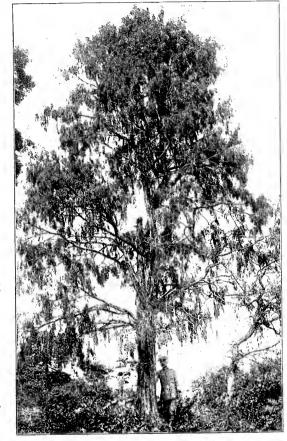
花 附 直 頭 那 樹 1 ッ ŀ 徑 庭 Ш 散 てらせん 近 州 雖 民 Æ 九 往 IJ ナク咸鏡 島 州 1 在 ァ Æ 家 ねず 栽山 欝 サ 中 **々** 今 MAYR 氏 ス IJ ゝ、 一豆滿 ヱ 陵 ^ 國 jν 山 3 部 からま 尺 島 人 3 F. シリ ア 等 = 陵 到 3 老樹 滴北 IJ ナ掘 過 = ヲ IJ 島 = w y Щ 流 小 IJ 來 達 除 近 處 掘 ギ くと。 Larix Principis-Ruprechtii = 道 域 葉 9 **≥**⁄ 古 ズ材 IJ ス ケ ッ 取 生 = 余 | 來栽 N ハ **≥**⁄ キ 原栽 テ ジ 中 百 多 北 Ħ P ヲ 殆 難 ハ ハ ュ 市 ŀ ねず 年ルか 部 未 ず 購 香 ŋ 植 却 ン 丰 F. = 井 特 B Z" F., 氣 海 京畿 Ħ シ 樹 テ Ŀ 樹 其自 全道 リ 京 ひめ = モ 余 多 岸 山 ア グ 猛 こなつ林 豆 林 亦分布 短 城 巖 道 ŋ 地 ヲ ク 郷里 滿 生 ねず 香 = ク 以 = 角 伐 Ħ 生. 品 雄 佛 在 材 江 Æ テ 生 テ 亦 上 ヲ 花 國 京 ジ y 廣 Щ 鉛 = = 品 ク 淮 平安ズ 毬 四如 流 天 鮮 個 ク П 用 綟 城 筆 主教 尺 丰 最 = 材 H 陵 夥 南 球 亦 ハ ガ 北 ハ 得 タ ŀ 會京多

部合

w

セ減衙

名ヲ 始マ ŕ リ金剛山上ヲ經テ北部ニハ到ル處ニ分布シ鴨綠江上流大森林ノ主要樹ヲナス特ニ朝鮮五葉ノ セ V Æ davurica ノ間 ハ中間形多ク殆ンド區 別シ難 キ ŧ ナ IJ



平安北道東郡江東邑=在ルねず (Juniperus rigida, Sieb. et Zucc.) ノ大木ナリ

再ビ來朝シ其 P. Koyamae

南 智異 Щ

日所謂鴨綠材ハ殆ンド本品 テP. Schrenckiana タルコ obovata ヲ用ヰ余モ亦之ニ **對側ノ滿洲地即チ十九道溝** ヲ極論セシ結果改訂植物名 傚ヒシガ ニ限ラル、ニ至レリ リ帽子山方面ニ生ズ學名 北部咸北ノ西部並ニ其反 てうせんはりもみ Komarov 氏、 Picea WILSON 氏來朝シ 減退セシ今 ふ 咸南

朝鮮産松柏類ノ種類ト分布 (承前

obovataハてうせんはりもみ又ハやつがだけとうひノ大形品ニ類セル者ヲ生ズル事モアレドモ

リP. obovata 幷ニ P. Schrenckiana ハひめばらもみ樣ノ葉ヲ生ジ特ニ後者ハ一層長ク常ニ二珊ニ超ユ又毬果

ト力説セリト雖モ共ニ非ナ やつがだけたうひ)ニ同ジ

P. Schrenckiana

ハ其名ヲ載セリ近時氏

IJ

其三分

一二過ギ

ij. w

モ

ヲ生ズやつがだけとうひ

最

モ 近似 2 種

ŋ. 至

枝色一層赤ク葉

ハ太クシ

テ且密生シ其先端ハ丸ミ多ク毬果ノ鱗片薄キ

ラ以

ララ直 相

兩 丰

種

ヲ

區別

3/

あかまつハ

最モ

分布廣 得 は

違

毛

てうせん

流域弁

コ遼島半島ニ及

超

工.

ーテ満洲 濟州島

入リ鴨緑

ベ江

3

y.

北

國境

ヲ

funebris ノ名ヲ與ヘシモ リKomarov 氏ハ之ニ Pinus

結果

其新

種

タ jν ゚ヺ

~ 發見シ

斯

Pinus mukdensis ノ名ヲ附セ

y

Wilson 氏ノ談

=

依

 $\nu$ 

バ此松ハ鴨緑遼河

兩

冮 研 くろまつ狀ナリ

ト共ニ研究三號ノ歐文欄

んしらくろまつニシテ其

照多 朝 鮮 總 府 農林 門學校教授植木秀幹氏ハ夙ニ 詳細 = 其樹ラ觀察シ又標本ヲ大學へ携へ來リテ余ト共

咸鏡南道長津郡上新院ノてらせんはりもみ (Picea Koraiensis, NAKAI.)=シテ樹ノ高サ 六十尺許アリ其下ニ見ユルハ山神ノ祠ナリ

實物 同意 記者 松 江流域弁 ッ叉 Plantae Wilsonianae ハ P. sinensis ヲ用ウレ ラ見 ハあかまつト 也 WILSON 氏自ラ 'n, ルニ コ奉天北陵 及ンデ 但シ滿洲 異 ナ 余 Æ jν = Æ 女 鵬 說 其

潤ヲ隔 物腐敗

ツ亦能

象

牙ヲ理 終葉

メ光澤アラ

**୬**/

計

ニ粤中、

7

易 イフ者

ジを惟

ニテ之ヲ藏

スレ

バ久ヲ Å

取比群芳名實稱。

詩ニ三陽初轉

一枝開。迓得東風草未胎。出色曾經窓下雪。

含香不亞嶺頭

梅。

目二数冬ノ一名ハ数凍、

抵冬、

一名

迎春經雪

席杏杏。詩魂眞化風蝶。冷香淸到骨。夢十里。

茉莉涛夢

「名花交叢」玫瑰ニ笑刺道人ノ稱アリ、

梅花雪。

之ヲ瀹

v

バ蔬ニ充ツベシ、

「植物名實圖考、

山草類〕

リメバ久

ヲ經テ壌

ダレズ本

記二柊葉

ŀ

アリ狀ハ芭蕉 等ノ物ヲも

ジ如

みム 可シ

以テ参茸

ŋ 鑽凍、 才。

百草中惟此レハ氷雪ヲ顧

李時珍日ク冬、氷下ニ生ズ故ニ顆凍ト名ク後人訛ラ欵冬ト爲ス欵ハ至ナ

ミズ最モ春ニ先ンズルナリ故ニ

一世二此

尤宜喚作百花魁。、〔羣芳譜、藥譜〕本草綱

康熙字典

孝子傳ニ尹伯奇、

端凹 水嶺 メル ·區別點 於 モ本種ハ テ ナ ۸ر IJ 赤 突起 松 ŀ 接觸混 シ且著 未完) **≥** 生 キ ス 同 刺アリ又 P. sinensis ノ葉ハ多クハ三葉ナ 氏 ハ之ヲ sinensis ナ ŋ ŀ 主張 ス レド ۴ 屯 モ本種ハ二葉 sinensis ノミナ 毬果 iv ۱د 等ハ 其鱗片 最 先 屯

求 (承前) セラレタ故ニ本稿ハ是本題ノ著者松田定久君 レ以後本誌ニ顯ハレナイコトニナッタコトヲ悲ハ不幸ニシテ喉内ニ病ヲ得大正十年一月十六日

田

[錦字箋] 欵冬鑽凍 黄裳早合稱 尹旋津ノ詞ニ凄凉夜○ 元吉。 〔花曆百詠〕 青帝休教落異 迎春放

リ冬ニ至テ花サク 楟 花充蔬 ク采リテ曝シ乾カス ナリ寇宗爽日

停花ヲ采リ以テ食ト爲ス註ニ停花ハ即棠梨花 ク葉濕フ時以テ角黍ヲ包ミ乾ケバ以ラ物ヲ包苴シ缸口 持ス可シ即土ニ入ル千年壌レズ柱礎ノ上柊葉ヲ以テ之ヲ ・ノ高サ約二三尺葉 柊葉ハ粤東ノ家園 ラ鑽 凍ト ノ長サ尺許青色ニ = 産ス草本、 謂 フ ナリ春開 形ハ芭蕉 シテ四 ラ封

如

シ

葉

٠,

ス蓋 季凋

南 ズ南

方地熱

越 雏 ヲ

110

卷成片片似芭蕉。 柊葉ヲ謂

文杏爲梁

古柏作棟

用ヲ爲

ス ٠٠

韻府、

終ヲ多トス廣州竹枝詞

= 一云フ五

杏梁」長門賦二刻木蘭以爲榱 月街 頭

蒙 求

木